

特性要因表 (チェックリスト)

参考文献・全国ビルメンテナンス協会作成「職場長の安全衛生指導テキスト」

項目		良否	項目		良否	
起因	物自体の欠陥	粗悪である	危険動作	充電物に触れる		
		設計・構造が悪い		危険速度で動作する		
		強度が不足している		誤った機器の使い方をする		
		老朽化している		確認なしの行為		
		滑りやすい/他		不安全な機器を使う/他		
物の欠陥	安全防護の欠陥	防護装置がない	共同作業の欠陥	合図なしに動作する		
		防護措置が悪い		あいまいな合図で動作する		
		防護保持が悪い		動作、呼吸が合わない/他		
		区画、表示の欠陥/他		資格なし、許可なし		
不安全状態	周辺配置の不適	不安全な物の貯積	規律無視	警報標識無視、規則無視		
		作業場の乱雑		指示無視/他		
		不安定な生産工程		精神不全	精神的欠陥	
		不安全な作業			性格的欠陥	
		作業場が狭い/他			知能的欠陥/他	
状態	作業環境の欠陥	照明が暗い	不安全な人	身体的要素	目の欠陥	
		換気が悪い			耳の欠陥	
		温・湿度が不適			筋肉ぜい肉	
		騒音がひどい			疲労(職場外生活を含む)	
		粉じんがひどい/他			内臓疾患/他	
		使用法の誤り			安全作業に無知	
不安全な行為	保護具の誤使用	使用しない	知的欠陥	不適正態度	不慣れ、未熟練/他	
		不適切な保護具を使用			故意に指図を無視する	
		必要な衣服を着用しない/他			故意に傷害を起こす	
		無理な姿勢で動作する			怠慢、不和、反抗/他	
		危険位置で動作する				
		交差曲角で暴走する				
		落下物下での作業/他			その他	

特性要因の分析

原因と結果の関係を明らかに

災害は数多くの要因(特性要因)から構成されている。一般に、ひとつの災害は、少なくとも一〇を超える要因によって構成されるといわれるほどである。したがって、災害原因を追求する場合、災害のもととなったすべての要因を明らかにし、要因全部を一緒にして災害原因と捉えるべきである。

また、災害要因には、物的面Ⅱ不安全状態と人的面Ⅱ不安全行為がある。不安全状態としては施設環境や機械装置、工具類に至るまでを考えなければならぬし、不安全行為としては作業者の職場におけるすべての行為を考えなければならない。

一般に、災害原因を分析する場合、こうした特性要因をひとつずつ明らかにしていく手法が用いられている。

そのひとつが特性要因表(次頁参照)でチェックする方法であり、もうひとつに特性要因図を描いていく方法がある。

特性要因表はチェックリスト形式になっているため、どの現場でも手軽に利用できる。「その他」の項には、作業現場の実情に即した項目を設けて使用するとよい。

一方、特性要因図は、原因と結果の相関関係を調べるものである。まず、中央の背骨(柱)を引き、不安全状態と不安全行為とで上下に二分する。そのなかでも要因をいくつかの項目に大分類し、背骨に向かって斜めに大骨(幹)で結ぶ。分類に応じてさらに詳細な要因を小骨(枝)で引き、大骨と結びつける。こうすることで、いくつもの要因が結合し、災害発生までの関係が明らかになる。

災害分析事例

●災害発生時の状況

- 倉庫内でフォークリフトを使い、荷を構台上に積み上げる作業を行っていた
- 作業者は構台上登るのに昇降設備を使わず、荷とともにパレットに乗って昇降していた
- 倉庫内は狭く、ハンドルを切り返してフォークリフトを運転しなければならなかった
- 倉庫内は薄暗かった
- 倉庫の床面にくぼみがあった
- フォークリフトの前照灯の電球が切れていた
- パレットが腐食していた
- 構台上的荷は積み方が雑で、崩れやすい状態だった
- 作業者は保護帽や安全帯を使用していなかった
- フォークリフトが床面のくぼみにはまって傾き、構台上に衝突した。その衝撃でパレットが壊れ、作業員が転落した。さらに構台上的荷が崩れ落ち、作業員の上に落下した

